# 「漱石のオセロ」はしがき

野上豊一郎

青空文庫

# はしがき

これは故夏目金之助先生が明治三十八年九月から東京帝國大學文科大學英文學科の講義として讀まれたOthelloの筆記である。先生のShakespeareの講義は、今一つの文學史の講義と同樣に、一週三時間であつた。私は、明治四十年三月に先生が大學をやめられるまで、Othelloの外に尚ほThe TempestとThe Merchant of VeniceとRomeo and Julietを聽いた。少くとも先生の講義に對しては、私は忠實なる一學生であつた。その講義が、いかに先生獨得のものであり、いかに批評的であり、またいかに暗示的であつて私を動かしたかを、決して忘れない。震災でこはれて燒けた赤い煉瓦のゴシックの建物の中の第二十番教室であつた。その薄暗い教室はいつも聽講者で一ぱいであつた。私はその片隅の机に向つて、Cassell版の小さいポケット本を開き、先生の口から洩れる一言半句をも聞き落すまいと全身を耳にした。先生は多くの訓詁註解者の上に立つて全然自分一箇のあたまで批判しようとしてゐたらしい。Furnessの集註本を唯一無二の金科玉條と心得てゐた私たちにとつて、それは一つの驚異であつた。その解釋と批評の言葉がそれきり空間に消えてしまふのが限りなく惜まれた。私はペンを走らして出來るだけその言葉をTextの間に書き留めて置いた。それが此の筆記である。併し私のあたまは主として原文を理解する事の方へ向つてゐなければならなかつた。だから書き留め得たものは、先

生の口を洩れたものの果して何分の一に過ぎなかつたであらう。今久しぶりに取り出して見て、殊にさう感じられる。まだいろいろあつたやうにも思はれるが、今更どうすることも出來ない。だが、これだけでも、讀んで見ると、私には、すでにおぼろげになつた記憶の間からさまざまの影像が浮かみ出して來て、その時感じたであらうやうな暗示を感じることが出來る。それと同じやうな印象を、此の書の讀者に、私の不完全なる筆記が若し與へることが出來て、漱石先生の特異なる表現の幾分かをでも再現せしめることが出來るならば、私としては滿足である。

此の書には辭句の解釋も取扱方の批判もすべて先生の口から出たものだけが記されてあるわけである。

書き留めた文體は必ずしも先生の表現であるとは限らない。先生の表現をそのまま保存してあるやうに思はれる部分もあれば全然筆記者の便宜から要領だけを書きつけた部分もあるらしい。すべてそのままにして手を入れない。

それ故に或ひは此の書は、夏目金之助氏がいかに Shakespeare を解釋したかを示すものといふよりは、寧ろ筆記者はいかに夏目金之助氏の講義を聽いたかを示すものに過ぎないかも知れぬ。

例へば或る難解の辭句に封して先生は諸家の説を擧げてそれを批判し、且つ自分の意見を添へるやうなことが多かつた。けれども私の筆記には後者だけが書き留められてある場合もある

だらう。當時高等學校を出たばかりの青二才の私には、他日此の筆記を整理して同好の人に頒つやうな機會が來るだらうとは意識されなかつたから、今日に於いてそれ等の不備をば諒として貰ひたい。

底本としては先生が常に教室に持つて來られた The Arden Shakespeare を用ひた。

それから後、先生は大學をやめて、小説家になり、多くの作品を遺して、亡くなられ、もう十三回忌も過ぎた。今頃斯んなものを持ち出すと野上のやつ、餘計なことをする、と云はれるかも知れない。併し私には此のまま此の筆記を葬つてしまふのが惜しく思はれる理由がある。それが鐵塔書院小林君のおだてに乘つて發表することにした所以である。

昭和五年四月

野上豐一郎

# 青空文庫情報

底本：「夏目漱石先生評釋　OTHELLO」鐵塔書院
　　1930（昭和5）年5月10日発行
入力：門田裕志
校正：染川隆俊
2009年6月17日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 「漱石のオセロ」はしがき

野上豐一郎

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/